



# T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

国際ロータリー第2750地区  
創立2004年12月8日  
東京六本木ロータリークラブ

**超私の奉仕**

国際ロータリークラブ会長

知り合って、楽しく学ぶロータリー

東京六本木ロータリークラブ会長

2005. 11. 21

## WEEKLY REPORT

No. 17

11月はロータリー財団月間です

— 卓 話 —

「リラックスして生きる第2の人生」

劇画家・声楽家

池田 理代子 様



私、「47歳の音大生日記」という本を出しております。普通、女性は年齢を出すのを嫌がるんですが、私の場合歌よりも47歳で音大に入ったことが売りでございます。40歳のときに大変きつい更年期障害になりHRTというホルモン療法を受けました。それは当時癌のリスクが高いと言われていたんですが、毎日毎日生き延びられるだろうかというくらいひどい状態で、こういう状態で長生きするより寿命が縮まってもいいからクオリティーの方を大切にしたいと思いました。劇的に効く治療で、飲みはじめて1週間で気持ちが明るく前向きになることができました。リスクがあっても人生の質の方を取るというのは私の主治医が教えてくれたことです。「ベルサイユのばら」を書いていた頃、次のストーリーが出来ないと寝ても頭の中でいろんなストーリーが浮かんで来て、ほとんど寝た気にならない。それで先生に相談しましたら「睡眠薬を飲みなさい」と。それは危険でしょうと申し上げたら「ボーっとした頭で暮らすよりまし。多少リスクはあるけれど、選ぶのはあなた」と言われました。第2の人生を選ぶに際してこの考えをとることが出来たのは、40代になって生きてきた人生の長さより残された人生の長さが気になったためですね。

今、人生が本当に長くなっています。この間もある哲学者の方が、人生が80、90となって先人の知恵を紐解いても参考になることが何も書いてない、残された数十年、精神的にも肉体的にも元気で生きなくてはいけない時代が来るんだというようなことを書かれていました。ただそれは確かに大変なことですが、例えば伊能忠敬が日本地図作成に掛かったのは50歳、ファーブルが昆虫記を書き始めたのは55歳です。それから長い時間をかけて彼らはすばらしい仕事を成していくんですね。そう考えると、決して第2の人生はおまけではない。むしろ第1の人生よりもっとすごい仕事をなさる方々もいらっしゃる。

私は最近「あきらめない人生」という本に書いたんですけど、若いときは人生を大層なものに思っていたという感じがします。もう一度若い時代に戻りたいかとよく聞かれますが、10代、20代のあの煩悶、自分は何のために生まれてきたかといった苦しみはもういやですね。第2の人生に踏み出して私が楽になったのは、宇宙という空間の中で人間の一つの命、人間が成し得る一つの仕事にどれほどの価値があるかと考えたためです。そう考えると小さな生命が愛おしくなり、それと共に「そんなに気負って生きることはないんだ」という気持ちになれました。第2の人生こそ本当に好きなことを社会的な枠から外れてやる事が出来る、そういうすばらしい時代ではないかなと思います。





## ニコニコBOX報告

- 小島 篤さん 高橋先生、本日は卓話をありがとうございます。楽しみにしております。
- 山本 良樹さん 皆様、ニコニコボックスへのご協力に感謝です。そしてまた、今後のご協力をお願いします。
- 杉本 潤さん 会員選考委員会の皆様には早くから有難うございました。
- 渡邊 滋さん いつの間にこがらしの吹く季節になりました。
- 松本 智さん 今夜初のワイン同好会です。楽しみにしております。
- 岡田 達雄さん 先週、無事にUCLAの会議が終了しました。
- 安井 悦子さん 明日の、紀宮様のご成婚をお祝いして。

- 篠塚 博さん 六本木RC一周年をお祝して。
- 中川 勉さん 公園のもみじも少し色づき……。
- 森 佳子さん 高橋先生のお話を楽しみにしております。本日は有難うございます。
- 片岡 雅敦さん 先日、恵比寿ロータリークラブ創立10周年記念式典・祝賀会に代理で出席させて頂きました。とても盛大ですばらしい式典と祝賀会でした。

テューコ デルゴ-シキさん HAJIMETE NIKO NIKO BOX, KINGA  
KUMO MESSAGE MO CHIISAI DESU.

本日卓話をして頂いた高橋潤二郎様より、講演料をそのままニコニコBOXへご寄付いただきました。ありがとうございました。

11月14日 合計 82,000円  
累計 1,157,000円

## 卓話者の略歴

### 松尾文夫様

- 1933年8月12日東京生まれ。
- 1956年3月、学習院大学政経学部政治学科卒業。同年4月、共同通信社入社。大阪社会部、本社外信部を経てニューヨーク、ワシントン特派員(1964-69)。バンコク支局長(1972-75)。ワシントン支局長(1981-84)。論説委員などを歴任。
- 1984年末から共同通信社が米国のAP通信、ダウ・ジョーンズ社と提携して展開した、国際金融情報サービス「テレレート」の業務を担当。(株)共同通信社常務取締役、(株)共同通信マーケティング代表取締役社長などを歴任。
- 2002年5月、松尾文夫事務所を設立、ジャーナリストに復帰。アメリカ専門家としての活動を開始。
- 2004年7月、著書『銃を持つ民主主義—「アメリカという国」のなりたち—(2004年3月小学館刊)が、第52回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。
- 2005年8月16日付 米Wall Street Journal 紙に「Tokyo Needs Its Dresden Moment」と題して寄稿、ブッシュ大統領の広島での献花などを提案。

### 本日のプログラム

「ブッシュ政権と日本」

ジャーナリスト

松尾文夫様

### 次回のプログラム

平成17年11月28日

「クラブ協議会」

## 東京六本木ロータリークラブ

会長 小竹直隆 幹事 小島 篤

会報・広報  
委員長 安井悦子

会報・広報  
副委員長 渡辺美智子

〈事務局〉〒106-0032 東京都港区六本木6-10-3 グランドハイアット東京内 TEL 4333-8773 FAX 4333-8774

〈例会〉毎週月曜日 午後12:30~13:30

〈例会場〉グランドハイアット東京